



キャスビーさかい
CASBEE堺



堺市建築物の総合環境配慮制度

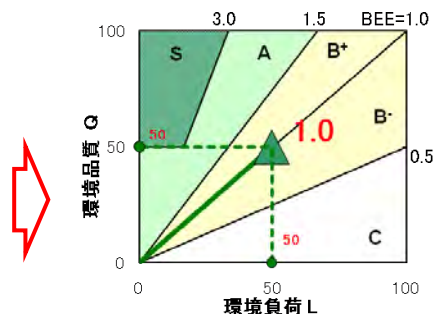
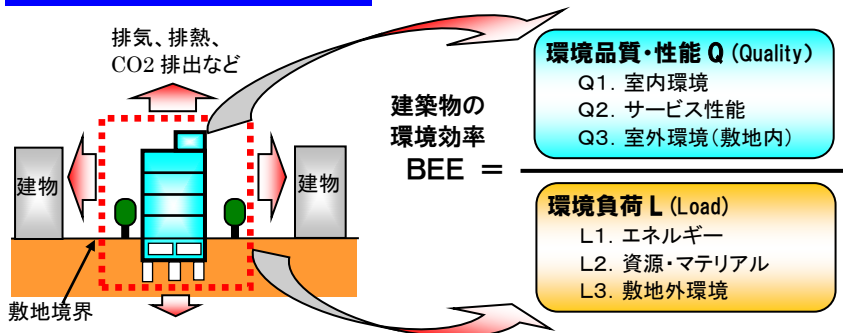
建築環境賞



平成24年度から「CASBEE 堺[※] 建築環境賞」として、環境配慮に優れた建築物の建築主等を表彰します。この表彰は、環境配慮型建築物の普及促進と、低炭素都市「クールシティ・堺」の実現に寄与する意識の高揚を図ることを目的としています。

※延べ面積が 2,000 m²以上の新築などを行う場合には届出の義務があります。

CASBEE評価の仕組み



ランク	評価	BEE値ほか	ランク表示
S	素晴らしい	3.0以上かつQ=50以上	赤★★★★★
A	大変良い	1.5以上3.0未満	赤★★★★
B ⁺	良い	1.0以上1.5未満	赤★★★
B ⁻	やや劣る	0.5以上1.0未満	赤★★
C	劣る	0.5未満	赤★

より良い環境品質・性能 (Q) の建築物を、より少ない環境負荷 (L) で実現しているかを評価します。

詳しくは、(財)建築環境・省エネルギー機構のホームページ(<http://www.ibec.or.jp/>)をご覧ください。

選考対象建築物

CASBEE 堺の届出建築物で、次の全てに該当するものです。

- ・環境配慮への取組みが優れている建築物
- ・建築基準法に定める検査済証が交付された建築物
- ・表彰の前年に工事完了届出書が受理された建築物
(平成29年度は、平成29年12月28日までに受理されたもの)

賞の種類

建築主及び設計者に、次の賞を授与します。

(各賞において相応しいものがない時は、「該当なし」とします)

- ・堺市長賞：特に優秀なもの
- ・優秀賞
- ・奨励賞

選考方法

CASBEE 評価がAランク以上で

- ・BEE値
- ・堺市の重点項目シート
- ・特筆する取組内容

について完成した年ごとに選定。

(現地確認を行った上で決定します)

問合せ先

堺市 建築都市局 開発調整部 建築安全課

行政資料番号 1-J4-17-0294

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号(堺市役所 高層館13階)

TEL 072-228-7936 FAX 072-228-7854

建築安全課ホームページ

<http://www.city.sakai.lg.jp/kurashi/jutaku/kenchiku/shidou/kenchiku/index.html>

CASBEE堺

【平成30年2月 発行】

第6回

建築環境賞

受賞建築物の概要

優秀賞

株式会社クボタ 堺製造所 研究棟 (B-7 棟)

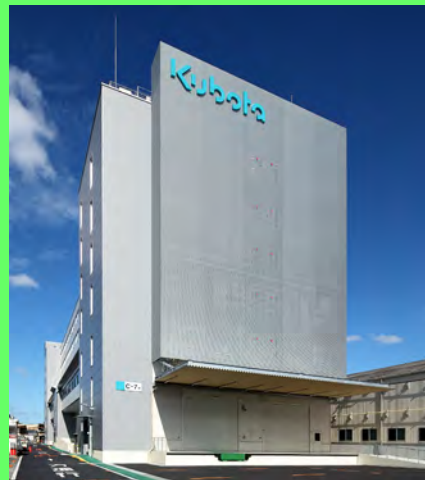
建築主	株式会社クボタ	
設計者	株式会社 大建設 大阪事務所	
延べ面積等	10,383.41㎡(SRC造 地上6階)	
CASBEE評価	Aランク (BEE値 1.7)	
堺市の重点項目シート	CO ₂ 削減	桜4個
	省エネ対策	桜4個
	みどり・ヒートアイランド対策	桜3個
	安全快適な暮らし	桜4個



堺製造所内施設の再構築事業であり、本建物は研究開発業務のための事務室と作業現場により構成されている。道路に面する立地を活かし、企業理念や地球環境保全の取組を外観や緑化等を通して発信し、環境配慮への啓発も視野に入れた計画とした。建物外皮は研究施設に必要な守秘性と遮熱性能を確保しつつ、自然採光による明るく快適な室内環境を実現している。特徴的な白い外壁や内装には防汚性とメンテナンス性を重視し、維持管理に要するエネルギー消費抑制に配慮した。また、使用建材には低汚染物質建材等を積極採用し、地球と利用者双方にやさしい建物とした。その他高効率設備機器、太陽光パネル、外構・中層部・高層部の立体的な屋上緑化等、幅広い環境配慮を盛り込んでいる。

株式会社クボタ 堺製造所 厚生棟 (C-7 棟)

建築主	株式会社クボタ	
設計者	株式会社 大建設 大阪事務所	
延べ面積等	10,085.97㎡(S造 地上7階)	
CASBEE評価	Aランク (BEE値 1.5)	
堺市の重点項目シート	CO ₂ 削減	桜4個
	省エネ対策	桜4個
	みどり・ヒートアイランド対策	桜2個
	安全快適な暮らし	桜3個



操業80年を迎え、地域に根差した企業としてトラクタ、建設機械、エンジンなどの主力製品を生産し続けている堺製造所の再構築事業として建設された。建物は製造スペース、食堂スペース、執務スペースなど、多彩な構成となっている。外装には高断熱パネルとLow-E複層ガラスを採用するとともに、屋上を緑化することにより、熱負荷の低減、断熱性能の向上を図り良好な作業環境を整えている。設備面ではLED照明・置換空調を採用し、太陽光発電設備の設置、社内ネットワークを活用したエネルギーの見える化により省エネを図っている。建物外部には配管スペースを確保し、活用スペースの確保と将来の設備更新性に配慮しつつ、貯留槽により雨水の流出抑制を行い周辺地域への環境配慮も行っている。